

河本五郎 反骨の陶芸



1.「赤絵の壺」1971 年

2023 年 4 月 22 日(土)～8 月 20 日(日)

菊池寛実記念 智美術館

東京都港区虎ノ門 4-1-35 TEL 03-5733-5131

※プレスレビューのご案内は最終ページです。

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、菊池寛実記念 智美術館の活動にご理解とご協力を賜り、誠に有難うございます。この度は、2023 年 4 月 22 日から 8 月 20 日まで開催いたします「河本五郎一反骨の陶芸」展をご案内させていただきたくプレスリリースをお送りいたします。

河本五郎（かわもと・ごろう／1919～1986）は表現としての陶磁器を追求し、その概念を押し広げた作家の一人です。1,000 年以上の歴史を持つ陶磁器の生産地、愛知県瀬戸市に生まれ、幼少より瀬戸の窯業に身を置きますが、伝統的な技術や価値観を客観的に捉え、個人の創意でそれらに対峙しました。

河本の制作は、大きくは前半の陶器と後半の磁器に分かれます。陶器の制作では、やきものの造形美は土の性質を抽出し象徴することにあると考え、土の粗い表情や裂け目、歪み、ひずみを生かし計算し、様々な方法で素材感や物質感をダイレクトに造形化する作風を確立します。成形技法としてロクロに重きを置いた当時の瀬戸において、作りたいものに合わせて土や技法を選択、または開発する河本の姿勢は異質なものでした。

家業の染付磁器とは異なる制作で作家として自立した河本ですが、意志ある姿勢はそのままに、しかし陶器から磁器へ制作を移行させます。そして瀬戸の染付磁器と更にそのルーツとなる中国陶磁への考察をもとに、どちらとも違う自身の染付と色絵に取り組んだのです。それは自らの制作で陶磁の伝統や歴史に迫り、乗り越え、進展させようとする行為であったといえます。

本展は、東京で開催する没後初めての回顧展となります。陶磁器を表現素材と捉え、その創造に真摯に向き合った初期から晩年までの 70 余点で河本五郎の陶芸をご覧ください。

つきましては、この展覧会を多くの皆様にお知らせいただき、周知にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■■展覧会概要■■

- 展覧会名 「河本五郎一反骨の陶芸」展
- 会 期 2023 年 4 月 22 日（土）～8 月 20 日（日）
- 観 覧 料 一般 1,100 円／大学生 800 円／小中高生 500 円
- 主 催 公益財団法人菊池美術財団
- 会 場 菊池寛実記念 智美術館（東京都港区虎ノ門 4 - 1 - 35）
- 開館時間 午前 11 時から午後 6 時まで（入館は午後 5 時 30 分まで）
- 休 館 日 毎週月曜日（ただし、7 月 17 日は開館）、7 月 18 日（火）
- 展示内容 河本五郎の陶芸作品を初期から新作まで 70 余点。
（会期中に展示替えをします。）

「既成の技術をいくら取り揃えても新しいことはできない。陶芸家というものが芸術家であるとすれば、今まで見たこともない新しい美しさを発見して、創り出してみせる義務がある。そういうことはなまじ出来ることではないけれど、そういう妄想を抱いた人を陶芸家といたい。（中略）

やきものが生まれてくるものなら、自分がどんな役割をするか、自分の意志がどこに働くのか。」

河本五郎は1919年に愛知県瀬戸市で製陶業を営む柴田家の次男に生まれました。幼少より家業を手伝い、愛知県窯業学校（現・愛知県立瀬戸工科高等学校）を卒業後は京都の国立陶磁器試験所意匠部で伝習性として約2年間図案を学びます。そして1940年に出征し中国全土を転戦後、1年余りの捕虜生活を経て1946年に復員すると、1950年、31歳の時に染付磁器で知られる河本礫亭（れきてい）の養嗣子（家督をつぐ養子）となりました。

土を抽象する

初期は礫亭のもと家業に従事し、その延長ともいえるロクロ成形の磁器に染付を施した作品も発表しますが、新しい生活に即した工芸を求めるクラフト運動にも一時関わり、その制作過程で、やきものを分析し、客観的にとらえる視点を養います。やがて、やきものの造形美は土の性質を抽出し象徴することにあると考えるようになり、「土を抽象する」制作を追求していきます。その作品は、当時の瀬戸において重要な技術であったロクロを用いることなく、陶土の表情を生かした様々な方法で素材感や物質感をダイレクトに造形化した作品でした（図版2・3）。

磁器への回帰

河本は「官能的で放縦な魅力にこと欠かない」陶器の仕事から一転し、再び、頑固で「人を寄せ付けないような、ストイックな魅力」がある磁器に挑み



2.「長壺」1964 年



3.「陶方壺」1966 年



4.「馬の明器」1972 年



5.「色絵史神文四方器」1974 年

ます。板状にした土を貼り合わせる造形は、自由に歪み、たわみますが、そのような動きを取り込み、生かし、計算して作品にしていきます（図版4～7、9）。または、石膏型を用いたり（図版1）、土の量感を求めて塊から削り貫いたり（図版8）と、陶土の作品同様に様々な方法で土の性質や質感を抽出します。そして染付や色絵で、龍や鳥をはじめ、入り乱れる足元、女性の横顔や愛を求め乱舞する男女、または幻想的な古代の都といった躍動感や官能、ロマンのある多彩な文様を描き、造形とそれらの文様を一体に、自身の表現とするのです。

伝統に打ち立てる「個」

河本の染付や色絵磁器は瀬戸の職人が担う高度なロクロ技術と分業による量産の染付磁器や、染付や色絵の起源となる中国陶磁への考察をもとに辿り着いた個人の創造としての磁器です。「『伝統』なるものは、すべての陶芸が背負わざるをえない遺伝子みたいなもの」と河本は言いますが、それらに縛られることなく、寄りかかるのでもなく、それを分解し、整理、理解した上で自分の制作を考える。そして、それに合わせて素材、道具、技法を選択し、または開発する一。そこには技術と感性、そして知力を駆使して打ち立てる個があります。河本の作品は、陶芸における創造とは如何なるものであるのか、問いかけるのです。

【画像申請についてお願い】

1点のみ掲載の場合は、図1か図6をご使用ください。

複数点の場合は図1と図6、次いで図5をご掲載の上、他の画像をご検討いただけましたら幸いです。



6.「色絵撩乱の箱」1974年



7.「銀彩女人四方器」1980年頃



8.「染付歌垣文筥」1978年



9.「染付流沙幻相匣」1984年

河本五郎 略歴

- 1919 (T8) 瀬戸市で製陶業を営む柴田家の次男として誕生
- 1936 (S11) 愛知県窯業学校卒業後、京都国立陶磁器試験所意匠部へ伝習生として入所
- 1940 (S15) 中国河北騎兵四旅団に現地入隊。中国全土を転戦
- 1946 (S21) 1年余りの捕虜生活後に復員。兄と家業の再建に努める
- 1950 (S25) 染付陶芸家・河本礫亭の養嗣子となる
加藤（岡部）嶺男、加藤元男らと陶芸グループ「灼人」を結成。
- 1953 (S28) 第2回現代日本陶芸展 最高賞（朝日賞）受賞
第9回日展 初入選
- 1955 (S30) 初個展（オリエンタル中村／名古屋）
- 1958 (S33) ブリュッセル万国博覧会 グランプリ受賞
- 1959 (S34) カリフォルニア国際博覧会 最高デザイン賞（金賞）受賞
- 1960 (S35) 日本陶磁協会賞（新人賞）受賞
- 1962 (S37) 第1回日本現代工芸美術展 大賞受賞、現代工芸美術家協会会員になる
第5回新日展 特選北斗賞受賞
- 1965 (S40) 西ドイツ国際手工芸展特別展 金賞受賞
- 1970 (S45) 愛知県勤労会館ロビーに陶壁「空と群鳥」を制作
- 1973 (S48) 日本陶磁協会賞選考委員、愛知県立瀬戸窯業高等学校専攻科講師になる
- 1982 (S57) 愛知県知事表彰
- 1984 (S59) 東海テレビ文化賞受賞
- 1986 (S61) 3月23日逝去。享年 67 歳。勲四等瑞寶章を授章される



■関連行事■

◆担当学芸員によるギャラリートーク

「河本五郎 反骨の知性」

5月6日、27日／6月17日

いずれも土曜日 15時より

◆ナイトミュージアム

ユニット「やぶかたり」による朗読劇

坂口安吾作『紫大納言』

8月12日（土）18時30分より（開場 18時20分）当館 B1 展示室にて

出演：今井朋彦、矢代朝子

会費：3,000 円（別途当日観覧券 1,100 円）

定員：60 名様 お申込制→Tel.03-5733-5131/e-mail info@musee-tomo.or.jp

◆こども鑑賞会

7月29日（土）14時から1時間ほど

定員：10組 25 名様、お申込制

年齢目安：4歳～小学6年生（保護者の方ご同伴のこと）

参加費：こども無料、保護者の方は要当日観覧券

講師：富田めぐみ（NPO 法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表）

■本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、本リリースに紹介されている作品画像をデータでお貸し出しいたします。申込書のご希望の図版に☑を記し、用紙を返信のうえ、お問い合わせください。ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までお知らせください。お貸出しする画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。作品の画像を1点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展ご招待券を読者プレゼント用に提供いたします。申込書、所定の欄に招待券希望の旨を明記してください。**お問い合わせ先 菊池寛実記念 智美術館（担当：島崎・足立）**

掲載・画像貸出申込書

返信先 FAX：03-5733-5132

●貴社基本情報

会社名：	
担当部署：	担当者名：
住所：	
電話・FAX	E-MAIL：

●媒体情報

新聞 雑誌	媒体名：	
	発行日：	発売日：
TV ラジオ	媒体名：	
	放送日：	放送時間：
ネット	URL：	

●画像貸出リスト ※キャプションには作者・作品名・制作年・所蔵者・撮影者を必ず入れてください。

【お願い】1点のみ掲載の場合は、図1か図6をご使用ください。複数点の場合は図1と図6、次いで図5をご掲載の上、他の画像をご検討いただけましたら幸いです。

希望作品に☑	作品キャプション
☐	（表紙・図1）河本五郎「赤絵の壺」1971年 h41.5×w33.6×d31.5cm（撮影：沼忠之）
☐	（図2）河本五郎「長壺」1964年 h75.0×w34.0×d21.0cm（撮影：沼忠之）
☐	（図3）河本五郎「陶方壺」1966年 h24.0×w33.0×d31.5cm 岐阜県現代陶芸美術館（撮影：沼忠之）
☐	（図4）河本五郎「馬の明器」1972年 h34.0×w70.0×d13.0cm（撮影：沼忠之）
☐	（図5）河本五郎「色絵史神文四方器」1974年 h39.5×w33.0×d31.6cm（撮影：沼忠之）
☐	（図6）河本五郎「色絵撩乱の箱」1974年 h39.5×w35.0×d42.0cm 瀬戸市美術館（撮影：沼忠之）
☐	（図7）河本五郎「銀彩女人四方器」1980年頃 h24.0×w37.5×d22.5cm（撮影：沼忠之）
☐	（図8）河本五郎「染付歌垣文筥」1978年 h23.5×w31.5×d26.0cm（撮影：沼忠之）
☐	（図9）河本五郎「染付流沙幻相匣」1984年 h27.5×w24.0×d23.0cm（撮影：沼忠之）

●読者プレゼント用チケット希望： ☐5組10名様 ☐10組20名様

※チケット発送は4月上旬になります。

プレスプレビューのご案内

展覧会の趣旨、作品解説など、内覧会に先立ちましてプレスの皆様にご説明申し上げます。
ご多用のなか恐縮に存じますが、どうぞご出席くださいますようお願い申し上げます。

菊池寛実記念 智美術館

プレスプレビュー 2023 年 4 月 21 日（金） 14:00 ～

14:00 ～14:45 展示室にて、展覧会のご説明、作品解説などを行います。
展覧会の会場内をご撮影いただけます。

14:45 ～15:00 皆様からのご質問にお答えいたします。

会場： 菊池寛実記念 智美術館 〒105-0001 港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1

- ・日比谷線・神谷町駅出口 4b より徒歩 6 分
- ・日比谷線・虎ノ門ヒルズ駅：出口 A1・A2 徒歩 8 分
- ・南北線・六本木一丁目駅改札口より徒歩 8 分
- ・南北線／銀座線・溜池山王駅出口 13 より徒歩 8 分
- ・銀座線・虎ノ門駅： 出口 3 より徒歩 10 分

ご出席いただける場合は、下記フォームにご記入の上、E-mail もしくは FAX にて
ご返信下さい。 **E-mail** info@musee-tomo.or.jp

FAX 03-5733-5132

会社名：

担当部署、氏名

住所：

電話：

FAX：

Email